

今月は、《漢書》に出て来るお話です。日本では、このままの形ではあまり使わず、同じ意味を、「公平無私」とか「公明正大」とか言いますね。



春秋時代、晋の平公が大夫(古代の官職名)の祁黄羊きおうように訊ねました。「南陽県の知事に欠員が出たが、誰を派遣したらいいだろうか?」

祁黄羊は、自分と敵対する解狐に知事としての能力があると考えて、解狐を推薦しました。果たして、解狐は着任後、土地の人々の為に多くの善政を行い、皆から褒め称えられました。

暫くして、平公は又、祁黄羊に訊ねました。「現在、朝廷の裁判官が一人不足している。誰にこの職を担当させたらいいだろうか?」

祁黄羊は、自分の息子である祁午を推薦しました。祁午もやはり就任すると、仕事を正確にこなし、人々の賞賛を得ました。

この二つの話を聞いた孔子は、「祁黄羊こそ、大公無私(公明正大)な人だ!」と褒め称えました。

語の説明では:「公は公正のこと。やることが公正で、私心の無いこと」です。

使用例文は、「包拯(北宋の名臣)は清廉潔白、大公無私な人である」です。



皆さんは、このお話を聞いて、どう思われますか? 私は、これで「大公無私」と言うのに、違和感を覚えました。それで少し調べてみると、子供向けに簡略化したせいで、少し説明不足であることがわかりました。

元のお話では、祁黄羊から解狐を推薦された平公が、「解狐は、お前と敵対しているのではないか?」と言うと祁黄羊は、「解狐が南陽県の知事に適任なので推薦したまでで、敵味方は関係ありません」と答えました。

また、裁判官の時も、平公が「息子を推薦したのでは、周囲の者に変に思われないか?」と言うと、彼は、「裁判官に相応しい人間をとお尋ねなので祁午とお答えしま

した。息子かどうかは関係ありません」と答えました。

孔子のコメントも、「祁黄羊は、才能を的確に見抜いて、周りの状況にとらわれず、適材適所に推薦をしている。彼こそ、本物の大公無私の人だ」と言うものでした。

実は、最近聞いた話で、同じように違和感を覚えたものがあります。日本の「大岡裁き」の中国版のような話なのですが、正確には、「大岡裁き」が中国の公案小説(裁判物語)を参考にしているのです。

明代の白話小説を集めた《滕大尹鬼断家私》と言う本に、滕大尹と言う名裁判官の話があります。ある時一人

の男が親の遺言だと言って、一幅の掛け軸を持ち込んで、親の遺産の分配を依頼して来ました。

滕裁判官が掛け軸を預かって調べると、簡単な仕掛けで、男の親の遺言書が見つかりました。そこには、兄が欲張りなのを心配した親が、蔵の右の壁に銀の壺5個、左の壁には金の壺5個を埋め、兄には右側の銀の壺を、弟には左側の金の壺を遺産として残すと書いてありました。



滕裁判官は、兄弟を呼び出して言いました。「お前たちの父親の遺言書を見つけた。それによると、蔵の右の壁に埋め込んである銀の壺5個は兄がとるように、左の壁に埋めてある金の壺5個のうち4個は弟が取り、残りの1個は裁判官が取るように」と書いてある。早速、遺言書の通りに分配するように」と言い渡しました。

大岡越前守にこのような振舞いがあると、日本人は承知しませんが、中国では、名判決と言われています。欲張りな兄は、自分が壺5個をとり、弟より自分の方が多いいので満足、弟は金の壺4個で満足、滕裁判官も金の壺1個を手に入れて満足。三方が皆満足するのだから良い判決なのです。

中国の人達の考え方には融通性があって、何でも黒白ははっきりさせないと気が済まない日本人とは違います。こんなところが、中国人は懐が深いと言われる所以かもしれませぬ。